

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

達成度(評価)

- A: 十分達成できている
- B: おおむね達成できている
- C: やや不十分である
- D: 不十分である

学校名	唐津市立 鏡中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの実現に向け、SPES(自分たちの手で未来を創ろうプロジェクト)メンバーを中心に、自分たちができることを考え、実践に移す力を育むことで、自己有用感を更に高めていく。 ・SDGsの視点を意識し、SPES(自分たちの手で未来を創ろうプロジェクト)と連携を図りながら、継続した防災教育を行う。 ・今年度実践した人権・同和教育の内容をベースにした、新たな鏡中のいじめや差別を見抜き、許さない人権・同和教育の推進を図る。 ・落ち着いた生活ができる環境になったことから、生徒の学習意欲を高め、学びに向かう力を高める授業実践を行う。
2 学校教育目標	ともに学び 心がふれあう学校
3 本年度の重点目標	<p>○SDGs～持続可能な開発目標～を意識した教育活動の展開</p> <p>① 開発的生徒指導の推進による新たな校風の確立 ② いじめや差別を見抜き許さない人権・同和教育の推進 ③ 特別支援教育の視点による生徒対応、支援を要する生徒の早期発見</p> <p>④ 「チーム鏡」諸問題解決に組織で対応 ⑤ 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、学びに向かう姿勢の涵養</p>

4 重点取組内容・成果指標				中間評価	5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・校内研修を中心に、教職員にマイプランに対する共通理解を行い、学校全体で取組の促進を図る。							・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○学びに向かう力を高める学習活動の研究	○ 開発的生徒指導の視点を取り入れた授業実践を行う教員100% ○ 質問紙調査「授業では、先生から示される課題や、学校やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいると思う」に肯定的に答える生徒80%以上	・開発的生徒指導の視点を取り入れた授業の実践を行う中で、教科ごとに開発的生徒指導型授業の共通理解を図る。							・研究主任 ・学力向上対策コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○質問紙調査の「人が困っているときは、進んで助けている」と肯定的な回答をした生徒が80%以上。	・人権講演会(人権集会)や道徳に関するアンケートの実施する。 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施する。 ・保護者や地域の方と連携したボランティア活動を実施する。							・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者 ・各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめ防止等のための取組、事業対応等)について組織的な対応ができていると回答した教員100%。	・いじめ対応についての研修・会議を年間に回以上行い、いじめに対する初期対応、指導、再発防止等への報告・連絡・相談体制の確立する。							・生徒指導主事 ・各学年生徒指導担当
	○生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒が75%以上	・学級活動や総合的な学習の時間を中心に進路学習を充実させる。 ・あらゆる場面で、夢や目標について自ら考えさせる時間や場の設定を行う。							
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒95%以上 ●毎日朝食をとって登校する生徒95%以上	・生活状況調査、食に関する実態調査の実施する。 ・保健だよりの発行する。 ・給食だよりを周知する。							・食育担当 ・養護教諭
	○将来を生き抜く防災教育の導入	○外部から講師を招聘し、SPES(自分たちの手で未来を創ろうプロジェクト)と連携を図りながら防災教育を実施する。	・日本赤十字社(佐賀支部)から講師を招聘し、生徒を主体とした防災に対する講演会を行う。							・各学年主任 ・各担任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する職員80%以上。	・定時退勤日(毎週水曜日)の設定と実行する。 ・週2日の部活動休業日を徹底する。							・管理職
	○タイムマネジメントの導入による自主自立の精神の涵養	○タイムマネジメント導入により、時間を意識することで業務改善を行うようになった教員80%以上	・退勤予定時間(ホワイトボードへの記入)の掲示による可視化する。							・管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○SDGsの視点を意識した教育活動の展開	○SDGsの担い手となる人を育てる「質の高い教育の提供」	○SDGsの視点を意識した教育の実践を行った教員85%以上	「SDGs～持続可能な開発目標～」の視点を意識した学習活動を通して、持続可能な社会を創るために学び続ける必要性を伝える。							
○特別支援教育の視点による生徒対応及び支援を要する生徒の早期発見・早期対応	○教員の専門性の向上及び意識の改革 ○「チーム鏡」での組織的な対応	○特別支援の視点による生徒対応力が向上した教員が80%以上。 ○学校評価保護者アンケートにおいて、「学校は、安全・安心で、いじめのない学校・学級づくりに努めている」と肯定的評価90%以上。	・特別支援教育に関する研修会を実施し、共通理解を図る。 ・支援会議の定期的な開催と配慮を要する生徒への職員間の情報共有する。 ・SCやSSW、外部機関との積極的に連携する。							・特別支援教育コーディネーター ・教育相談主任 ・生徒指導主事
○新たな校風の確立	○開発的生徒指導の推進による規範意識の向上	○質問紙調査の「学校が楽しい」と肯定的に答える生徒90%以上 ○生徒会や育友会と連携し、制服の見直しや校則を見直す場の設定	・教育活動全体を通して、役割・出番・承認の場の設定する。 ・生徒会や育友会と連携し、制服や校則の見直しを検討する。							・各学年主任 ・生徒指導主事

5 総合評価・次年度への展望	<p>●・・・共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
----------------	--